

ユネスコの戦略的変革について

背景

- ユネスコは財政問題や政治的対立に直面。一方で、質の高い教育や紛争下の文化財保護等、ユネスコの中心的マナデーは益々重要になっている。
- これら課題に対応するためには、組織に活気を取り戻し効率的に運営していくことが求められる。
- 改革は、第41回総会(2021年秋)において承認される中期戦略(2022～2029年)及び4ヶ年事業予算(2022～2025年)に結果を反映させることを目指す。

主な検討体制

- 改革案検討の中核組織として、ユネスコ幹部職員からなるステアリングコミッティを設置。
- 具体的改革案を検討する組織として、以下4つのワーキンググループ(WG)をユネスコ事務局内に設置。また、これら事務を事務を行うため、事務局職員で構成されるサポートユニットを設置。
 - ①作業効率性WG ②コミュニケーションWG ③戦略的パートナーシップWG ④グローバルプレゼンス向上WG
- ユネスコの戦略的役割及び位置づけ等について、アズレー事務局長に対し直接提言を行うための有識者グループであるハイレベル・リフレクショングループを設置。多国間システムや国際協力の分野で国際的に認知された人物12名で構成。

改革の三つの柱及び進捗状況

1. マネジメント文化強化のための構造改革

- ・事務局長直下に置かれる組織を削減することで意思決定のフローを改善する。
- ・事務局長補により牽引される「Administration and Management (ADM)」セクターの新設による本部の構造改革を2018年に実施。

等

2. 作業効率性の向上

- ①組織運営の効率化
 - ・人材管理(人事異動含む)、内部仲裁機能の改善を実施。
 - ・たとえば教育局においては、共同チーム方式でのプロジェクトを実践。
- ②ユネスコのコミュニケーション
 - ・公の意識向上に向けた新たなコミュニケーション戦略が第207回執行委員会で発表。
- ③民間セクター等との戦略的パートナーシップ
 - ・地域オフィスにおける財政に関する対話の実施
- ④世界におけるユネスコのプレゼンス向上
 - ・WGより、事務局次長に提言書等を提出

等

3. 2030年に向けての戦略検討

- ・ユネスコの優先分野に関する分野横断的な対話等、中期戦略策定に向けた各種対話を実施。
- ・ハイレベル・リフレクショングループが開催され、①社会的・人間的価値を創出するためのユネスコの役割、②ユネスコにとって重要と考えられるテーマ、③効率性及び可視性を高めるための戦略等について議論。

等

ハイレベル・リフレクショングループの開催概要

【第1回会合：2019年11月12日（火）～13日（水） 於：ユネスコ本部（パリ）】

- ◇参加者は、元首相、経済学者、数学者、建築家、絵本作家、ジャーナリストなど、肩書きや経歴は様々。男女、半々。
- ◇テーマ：ユネスコの戦略的な役割及び位置付け
＝教育（女性の識字率向上、教育現場の安全確保等）、文化（無形文化遺産の保全等）

【第2回会合：2020年3月18日（水）～20日（金）】

- ◇コロナウイルスの影響でビデオ会議形式で実施。
- ◇テーマ：セッションを4回に分けて実施（①ジェンダー及びアフリカ、②平和及び格差、③新テクノロジーと情報格差、④教育及び気候変動）。

【第3回会合：2020年7月17日（金）】

- ◇前回同様ビデオ会議形式で実施。
- ◇テーマ：平和で繁栄した社会のためにユネスコが実施すべき優先課題及びコロナ危機の影響

【今後の予定】

- 第4回会合：今年秋のユネスコ執行委員会のタイミング
- 提言：来年（2021年）春のユネスコ執行委員会に提出予定